

参議院議員選挙 公示まで20日

暮らし、平和守る争点を明確にし全力をあげよう

社会民主主義フォーラムは5月31日、参議院議員会館において「参議院選挙の主要な政策課題」をテーマに、小川淳也立憲民主党政務調査会長を講師に招き第2回政治セミナーを開催しました。小川政調会長は香川での総選挙を、地に足の着いた政治活動を学んだと振り返り、フォーラムについて党内の正当なグループとして切磋琢磨し大いに活躍してほしいと述べました。以下講演の要旨です（なお公約は6月3日に発表）。

■ 第一は物価高と戦う。これはアベノミクスからの転換を意味し暮らしを守ること。そのために安倍内閣以来の日銀と政府のアコード（政策協定）の見直しを行う。続いて当面の時限的な消費税減税だ。トリガー条項の見直し、輸入差益の国民への還元、肥料・飼料の高止まり対策などを進める。コロナ融資は欧米では返済不要としており、日本でも債務減免を講じることとしたい。収入面については最低時給1500円の明記や低年金者への生活支援給付金の積み増し、賃貸住宅の家賃補助などを明記する。

■ 第二の教育の無償化について。国公立大学の授業料は免除し無償化を実現したい。私立・専門学校については同程度の支援を行うこととなる。そして給食費の無償化、児童手当は所得制限を撤廃して高校までの延長とともに1万円から1万5千円に引き上げたい。子ども子育て関連予算は現在対GDP比1.7%だが3%台を目指す。さらに子どもの人権を代弁する機関として「子どもコミッショナー」を創設する。そして教職員の処遇改善のために定数増・給特法の廃止も掲げたい。

■ 第三の着実な安全保障について。しかしこれは前のめりの自民党とは一線を画す。吉田参議院議員の指摘を受け冒頭部分に「平和憲法に基づいて」という文言を挿入する。最近の特徴としてミサイルや宇宙サイバー空間、またSNSを駆使した情報戦など新分野に対する対処など記載している。しかし防衛費は抑制的



であるべきだ。自民党は「2%」と打ち出しているが、数字を掲げるなら子育て、教育関連であり防衛費ではない。そして非核三原則の堅持。核シェアリングには明確に一線を画し、唯一の被爆国として核なき社会を目指すことを明記する。

■ 一方、日米安保下での「核の傘」は一つの現実であり、万一の時に核兵器がどのような意図と覚悟のもとに使用されるかについて日本政府が全く関与できないということはおかしい。NATOでも核兵器の持ち込みはさせないという30か国の内29か国は、万一の時にどういう趣旨で核兵器を運用するかについて情報共有の場を持っている。こうした「拡大抑止協議」については民主党政権時代にスタートさせたが、当時も今も事務レベルで行われおり格上げが必要だと議論している。その他領域警備、尖閣への対応、ウクライナ問題（制裁や停戦）などにも触れている。

■ さらに医療・健康、雇用・年金など六項目を加えたい。肝心の財源問題については三点を明記する。第一に所得税の累進性の強化を図ること。かつての80%近い税率は今40%程度だ。第二に金融所得課税の総合課税化。第三に応能負担を原則とした法人税制の見直し。以前の40%台の税率が20%台に下がっており見直しが必要である。こうした項目にさらに細かいインデックスなど加えて公約の全体像を整えたいと考えている。

公約発表後「物価高と戦う」キャンペーン
泉健太立憲民主党代表（東京・有楽町）

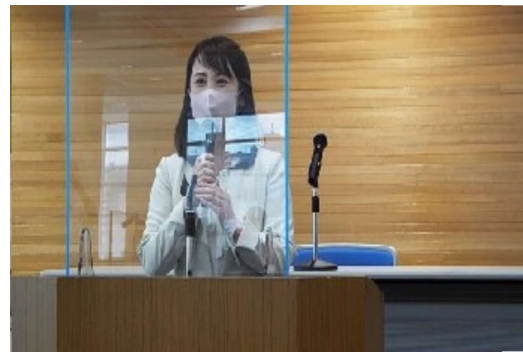


小野寺あきこ候補の必勝と会員拡大を決意

福島第2回総会

福島県社民フォーラムは5月14日、福島市において第2回総会を開催し、各地区代議員など約70名が参加した。紺野長人代表は「この一年は必ずしもスムーズな運営ではなかったが、今年の総選挙では県内の立憲候補者4名（比例復活1名を含め）全員が当選し、社民フォーラムの存在感を示すことができた。参議院選挙では選挙区で野党統一候補の『小野寺あきこ』さん、比例区で各所属労組・団体の立憲候補者全員の当選を勝ち取ろう」と挨拶。

来賓の金子恵美・立憲民主党福島県連代表に続き、**小野寺あきこ**予定候補者が「アナウンサーとして多くのリスナーの皆さんから生活の実態などを聞かれ、暮らしを立て直すためにも、困っている人の声を国会へ届けなければならない」と決意した。福島の



未来を明るく変えていくために頑張っていきたい」と決意を語った。

各地区からは、

護憲など平和運動と脱原発運動が報告され、参議院選挙勝利と会員拡大を今年の運動の柱とすることが確認された。

票の顔が見える活動に 全力を! (千葉)



公営ボスター、選挙ハガキなどの準備が慌ただしい中、「小西ひろゆきとともに政治を

変える総決起集会」が500名で開催された。国会議員・自治体議員、党員・サポーターは勿論、連合や労組から約180名が参加し、県連は、「宣伝活動を継続しながら票の顔が見える活動に全力をあげよう」と要請した。

我々は、1月から駅前宣伝、3月からは宣伝カー行動の運行を担い、現在も継続している。自治体議員は、統一自治体選（中間含む）を見据え選候補予定者を掲載した議会報告等を持って支持者を回っている。活動はきついが、「子どもの成長が生活不安で素直に喜べない」、「非正規で将来が見えない」という「政治に届かない声」と一緒にたたかう参議院選挙にしたい。

必勝へ県連大会を開催 (香川)

立憲民主党県連（代表・小川淳也衆議院議員）は5月15日、コロナ禍で延期となっていた第一回定期大会を開催し、党員、来賓含めて300人が参加しました。高田良徳県



連幹事長（フォーラム代表）が議案を提案し、「県回事選への対応」や「ロシアのウクライナ侵攻を受けての安全保障に対する考え」などの質疑が交わされました。

参議院選挙区予定候補の**もてき邦夫**さんは「弱冠35歳の私に思いを託して頂けることに感謝。現在の政治を転換させ持続可能な社会を次世代に継承させる」と決意を語りました。先月行われた綾川町議選では福家利智子さん、まんのう町議選では常包恵さんが勝利しました。引き続き参議院選勝利に全力をあげることを誓い合いました。

富山選挙区の取り組み (富山)

本年7月に予定されている第26回参議院選挙は今後の日本の「平和・国民生活」を大きく左右する重要なたたかいといえます。とりわけ、自民党はウクライナ戦争に便乗して、「核共有」「敵基地攻撃能力の保有」「憲法の改憲」を主張しています。今こそ、「自民党政治をストップ」させるために、参議院選挙を勝利する必要があります。



富山選挙区では1議席をめぐる、私たちが支持する立憲民主党公認候補「**山としひろ**氏」の他に、自民党現職・維新の会新人・共産党新人の4名で争う状況となっています。「山としひろ」陣営では、候補者本人の街頭演説・支持組合員宅あいさつまわり・全戸ビラ配布行動等をおして、立憲民主党の政策・「山としひろ」候補の知名度アップを図っています。